

## サケの放流式に参加

サケが遡上する南限として有名な栗山川では、近年サケの回帰する数が減少していることから、栗山川沿岸の自治体（香取市、多古町、芝山町、横芝光町）と千葉県、栗山川漁業協同組合で「栗山川鮭放流事業推進連絡協議会」を設立し、「サケの里親」事業を行っています。この事業は、環境保護の意識を高め、命の大切さを学んでもらうことを目的として、栗山川漁業協同組合が捕獲したサケから採卵した受精卵を流域にある、学校や事業所、個人に配布し、里親となってもらい、約3か月かけて、ふ化したものをまた、栗山川に放流するものです。

第二松丘園では、成田空港南ロータリークラブの支援を受け、新館の玄関に水槽を設置し、サケの飼育を行いました。



小さなサケが水槽で泳ぐ姿は面会にいらしたご家族様や、ご利用者様の目を楽しませてくれました。

平成24年よりこの事業に参加し、3年目を迎えますが、初年度は、ふ化したサケが全滅してしまうなど、うまくいかないときもありましたが、

今年度はほぼすべてのサケを無事ふ化させ、栗山川へ返すことができました。

3月10日の放流式には、グループホームのご利用者様4名が参加し、近隣の小学生たちと交って3～5cmに育ったサケの稚魚を放流しました。



地元小学生も参加



放流する入所者様